

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年12月3日

【評価実施概要】

事業所番号	0390500031		
法人名	社会福祉法人 寿水会		
事業所名	グループホーム千鳥苑		
所在地	〒028-3185 岩手県花巻市石鳥谷町大瀬川第8地割1番地1号 (電話) 0198-45-1167		
評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会		
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号		
訪問調査日	平成20年9月25日	評価確定日	12月3日

【情報提供票より】(平成20年9月5日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 10 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤7人, 非常勤 3 人, 常勤換算6 人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000 円	その他の経費(月額)	オムツ代は実費 円
敷金	有(50,000円)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要(9月20日現在)

利用者人数	8 名	男性	3 名	女性	5 名
要介護1	3 名	要介護2	2 名		
要介護3	2 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 81.4 歳	最低	75 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	石鳥谷駅前クリニック、宝陽病院
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

JR石鳥谷駅から西方に、葛丸川領域の自然豊かな環境の地に位置している。恵まれた環境の中でその人らしい生活をできる限り継続しながら、「和顔愛語」の理念のもと、地域との連携を図るとともに、家庭的で安心と尊厳のある生活を支援すべく取り組んでいる。職員と利用者が同じ目線で生活していることが、利用者全員の穏やかな表情として表れている。施設内は落ち着いてゆったりと過ごせるように配置され、かつ清潔感にあふれ、施設の安全面でも配慮が行き届いている。また、大きな特徴として温泉施設を所有しており、掛け流しでありかつ泉質も良く、利用者の生活を癒している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価における改善課題については、全職員で話し合いを行い、改善へ向けて定期的に開催する職員会議の中で検討し、具体的な取り組みへと結びつけている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>本年度の自己評価で新たに見いだされた課題の具体的な話し合いは、今後行うこととしている。具体的な改善へ向け、全職員で検討を重ね、より良いサービス提供への取り組みを期待する。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>行政担当者、利用者の家族、地域代表者などが委員として委嘱されており、定期的な運営推進会議が開催されている。会議の中では、利用者の生活状況、及び事業計画や予算についての報告を行っている。また、運営推進会議を地域との連携強化の一貫としてとらえ、消防署との合同による防災訓練の実施に関する協議なども行っている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>入居の時点で、家族の希望や要望を丁寧に聞くと共に、来訪時は気軽に意見要望を話せる雰囲気づくりに努めている。また、利用者担当の職員制を取り入れ、生活の様子を家族に伝える取り組みをしており、家族と施設との絆を深めている。さらに、運営推進会議においても家族代表者の意見が反映されている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の一員として、市町村の健康診断に出かけ検診を受けているほか、地域の祭事には、地域住民の協力・理解を得て、利用者が参加できる体制が構築されている。また、隣接するケアハウスとの合同のホーム祭では地域住民の来訪など、地域との関係づくりにも積極的に取り組んでいる。また、ボランティアの訪問サービスで理髪店の協力も得ている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「和顔愛語」の理念の元に5項目の運営方針を定め、利用者の普通の生活を重視し、家庭的な環境のもとで安心と尊厳ある生活を営むことができるような支援や地域との密接な連携等を目指している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念と5つの目標をホール中央に掲げ、職員、利用者、家族、訪問者の共有を目指している。また、日常のケアの中で理念を活かすために、ミーティングや申し送りなどで理念の実践に向けた話し合いを行っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣住民と挨拶を交わしたり野菜を頂いたり等の日常的な交流のほか、地区の敬老会や運動会などの招待を受けて参加しており、地域の祭りなどにも積極的に関わっている。また施設の行事实施に際しては、防災訓練や新年会等について地域住民の参加協力を得ている。	○	ホームや認知症に対する理解を深める機会づくりとして、より積極的に地域へ行事案内等を配布することや、交流の機会を広げる活動を期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年の外部評価への取り組みの中で明らかになった課題である、研修計画の立案、利用者の好みの食事やおやつを提供、行政の担当者との連携強化、広報の発行などについて、職員間で協議し重点的な取り組みを行っている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は、これまで運営推進会議を1回開催しており、今年中にと1回開催する予定となっている。運営推進会議では、事業計画、予算、利用者の生活状況等の報告を行うとともに、消防署との合同による防災訓練に実施に関する協議などを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議への市の担当者への参加を得るほか、保健師を施設に招き、利用者への支援の在り方についてのアドバイスを得るなど、情報交換と連携の強化に努めている。また、地域の要介護者の状況や施設の利用希望の状況などに関する情報共有も行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	日常生活の中で利用者に変化があった場合には、直ちに電話で家族へ連絡を入れるとともに、定期的に利用者の様子やホームでの暮らしの様子を手紙で報告している。	○	定期的な手紙による利用者の近況報告については、担当者により手紙の頻度や報告の内容に差がみられる。そのため、職員間で手紙の目的や、書き方についての意識の共有を行うための話し合いや研修の機会を設けることを期待する。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居の際に家族の希望や意見を確認しているほか、面会時及びケアプランの説明の際などに施設の取り組みに関する意見を聞くようにしている。また、運営推進会議では、家族委員の意見が反映されるようになっている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員に異動がある場合は、事前に利用者に対してよく説明をし、不安を与えないように十分に配慮している。また、利用者に担当を設けて利用者や家族に安心していただけるように配慮しているが、職員が変わる場合には、引き継ぎの期間を十分にとり、情報共有を密に行うようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員研修に関しては、昨年度の外部評価でも取り上げられた課題であったが、今年度は年間の研修計画を作成し取り組みを行っている。研修の内容としては、法人内の研修や勤務年数毎で研修内容を定めているものなどがあるが、全ての職員が平等に研修を受けることができるように配慮している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協会に参加し、研修や情報交換に取り組んでいる。特にブロックでの活動に関しては、身近な問題をテーマにした研修や情報交換を行っており、それらを有効に活用している。今年度は、看護師の他施設体験実習を実施し成果を上げている。	○	グループホーム同業者との「人ネットワークづくり」により、更なる勉強会等の交流が図られることを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居に先立ち、利用者ご本人や家族から生活歴、好きなこと、得意なことなどを確認し、ホームの生活の中でその人らしさを活かしていただけるように、全職員が一体となり受け入れ体制の整備に努めている。また、希望者に対しては、事前見学や体験入所も受け入れている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は調理、野菜作り、花壇づくり、掃除など、利用者の好きなことや得意なことを続けていけるよう支援しており、その中で利用者から様々なことを学んだり、支えられたりしている。日常の支援の中で、お互いに支えあうことの大切さや喜びを感じているとのことである。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との日々のコミュニケーションや家族との話の中から思いや意向の把握することに努めており、利用者が話した言葉などを書き留めることとしている。意向の把握が困難な場合は、スタッフ間の話し合いやケア会議を行い本人本位に検討している。	○	利用者の会話、行動、表情は、職員一人ひとりの捉え方も違うので、職員の感じた情報を共有(行動記録)し、より良い支援に繋げることを期待する。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族が希望していることを聞き、ケアプランに取り入れている。作成したケアプランについては、家族への説明を行うとともに、職員間で情報共有を行いながら、利用者の生活をチームで支えるための介護計画として活用している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日常の支援の中で利用者の心身の状態や意向を確認するとともに、申し送り等で日常生活上の問題点や支援の課題を確認している。さらに、3か月ごとにケース会議を開催し、介護計画の見直しを行っている。見直しを行った介護計画については、家族に報告し同意を得ている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療機関と連携し健康面への対応の充実を図り、土日でも診療を受けることができる。また、施設の特徴である温泉を利用した入浴が利用者に喜ばれている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前から通院していた医療機関への通院は、基本的に家族の付き添いのもとで行っているが、その際には家族への事前連絡を行い、日常生活の状況や心身の状態についての情報提供を行っている。また、緊急時には協力医療機関への受診を支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	これまで終末期のケアは行っていない。しかしながら、重度化した場合への不安を持っている家族もいるため、不安や悩みについての話を聞くとともに、職員は利用者や家族の不安を軽減することができるように日々の観察を行い、変化が見られた場合はかかりつけ医と相談する等、迅速に対応することを心がけている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報に関連する書類は事務室で管理し、第三者の目に触れることがないように配慮している。職員は常に言動に注意し、申し送り等ではイニシャルを用いるなどの工夫を行っている。失禁などが見られた場合には、尊厳を傷つけないよう周囲に配慮しながら、自然な介助を心がけている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者が何気なく言った言葉や、態度などを見逃さないように心がけ、本人の希望や思いをかなえることを目指している。利用者の習慣や癖、好きな食べ物などに配慮すると共に、畑仕事など利用者が得意とすることを行うことができるよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も利用者と同じ席につき、食事をとりながら、会話を引き出している。また、食事の準備や後片付けなど、利用者の得意なこと、関心のあることを把握し、楽しみながら行えるように支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	「千鳥温泉」の温泉を利用した入浴となっており、利用者からも大変喜ばれている。入浴するかどうかは利用者の体調や日々の希望に応じて変更しており、入浴を好まない利用者に対しては、声がけをし、無理をせず勧めながら清潔保持に留意している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの趣味や特技などを把握したうえで、レクリエーション、散歩、ドライブ、パンジーの種取り・発芽・花壇作りなどの活動場面を通して、役割や楽しみを持つような機会づくりに取り組んでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に、散歩や隣接するケアハウスでの行事、地区のイベントへの参加の支援を行っている。また、利用者と一緒に買い物や、地域の運動会への参加、消防演習の見学、アヤマ祭りへのバスハイクなど外出の機会を多く持てるように支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけることの弊害を理解しており、居室には鍵を設置していない。また日中はホームの玄関に鍵をかけておらず、利用者の安全確認のためにセンサーを設置している。夜間は午後7時から翌朝の7時まで防犯のために玄関に施錠している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の協力を得て、年2回の避難訓練を実施するとともに、防災に関しては隣接するケアハウスとの連携を密接に行っている。さらに、地域防災協力員の名簿を作成し、連絡網を整備することにより、万が一の緊急事態への対応に備えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の希望及び身体の状態により、普通食・刻み食等の食事が選択できる。お茶やゼリーにより水分の確保に努めているほか、定期的に体重測定を行い、本部の管理栄養士とも相談しながら、利用者の状態に合わせた栄養管理の支援を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	散歩に出かけた際に、摘んできた季節の草花を玄関の花瓶に生けたり、利用者の作品を飾りつけたりなどの工夫をしている。また、クリスマスや七夕など季節の行事に合わせて共用の空間を飾りつけ、季節感を高めるような取り組みを行っている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が使い慣れたテーブルや座椅子などを持ち込み、その人なりに居心地良く過ごせるような支援を行っている。利用者の中には、家族の写真や思い出の品物を飾って、大切にしている人もいる。		